

日経サステナブル総合調査2025 調査回答の意義について

NIKKEI-R

日経リサーチ 編集企画部

2025年4月

- 1. 調査の趣旨**
2. 回答のメリット
3. 今年の調査

- 日本経済新聞社はSDGs経営とスマートワーク経営を一体化した、日経サステナブル総合調査を2024年からスタートしました
- 2025年においても引き続き、
 - ・スマートワーク経営編
 - ・SDGs経営編の2つの評価を行う日経サステナブル総合調査を実施いたします

NIKKEI
Smart Work

NIKKEI
SDGs

スマートワークプロジェクトの新フレームワーク



※ここで示す「企業価値」とは上場企業であれば、一義的には、株式市場で評価された企業の価値、つまり、時価総額（株価×株数）を示す。このため、企業価値は財務諸表から得られる企業業績の実績に限らず、その将来性などが加味されている。また、近年、企業の社会貢献なども株式市場で評価され、企業価値に反映されるようになってきていることも考慮し、財務諸表からのみ測られることが多かった従来の企業パフォーマンス、企業業績よりも幅広い要素を含む概念として捉えている。

- 日経グループは、新たな時代に企業価値を高める経営のあり方として「**スマートワーク経営**」を提案します
- 企業の持続的発展には、最も重要な経営資源である**人的資産の充実**が不可欠です
- 「スマートワーク経営」とは、従業員のウェルビーイングの向上等により**人材を最大限活用**するとともに、**人材投資を加速**させることで、新たなイノベーションを生み出し、生産性を向上させ、企業価値を最大化させることを目指す経営戦略です



鶴 光太郎

大妻女子大学データサイエンス学部教授

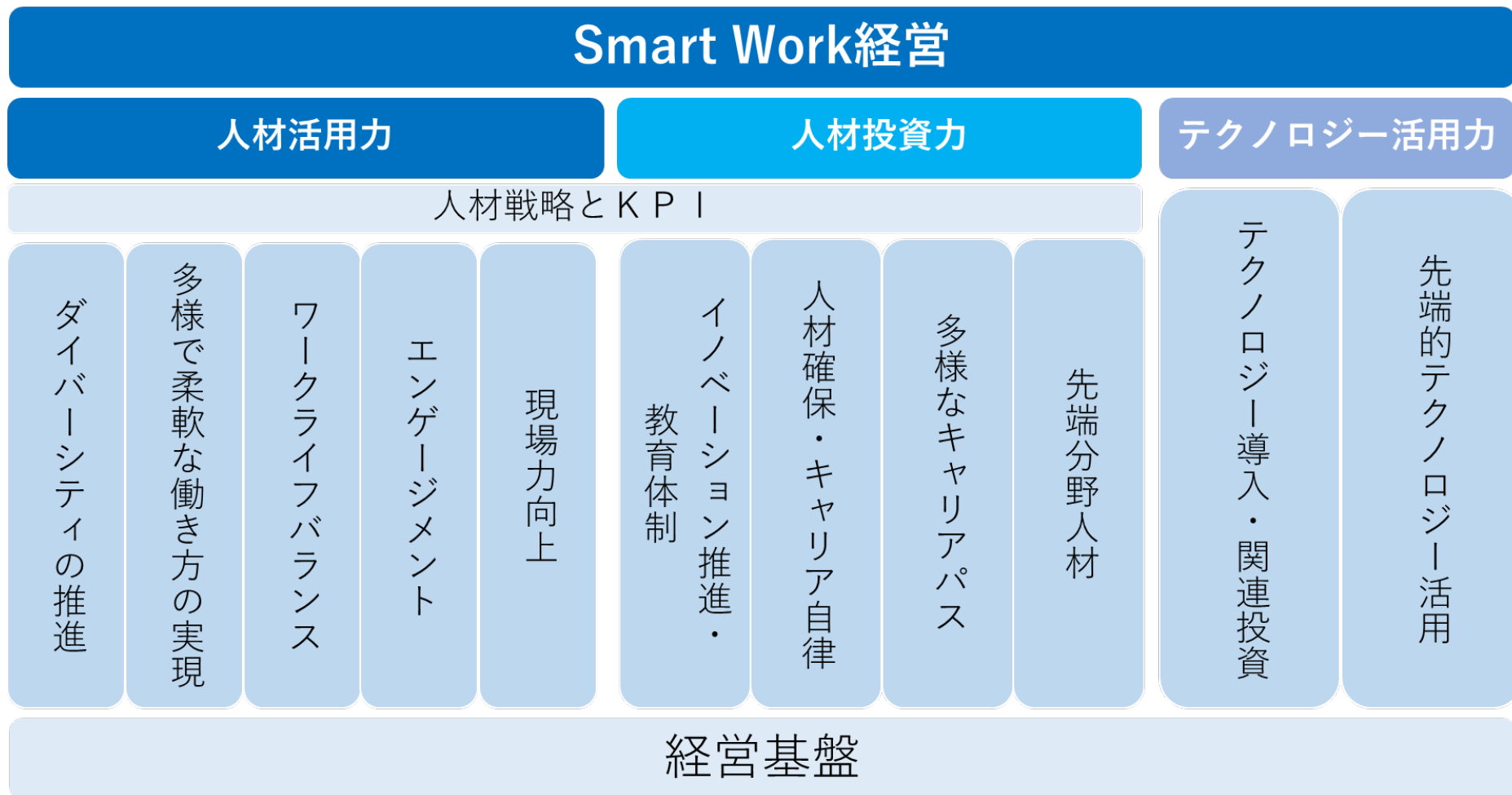
- ・経済産業研究所プログラムディレクター／ファカルティフェロー
- ・内閣府規制改革会議委員（雇用ワーキンググループ座長）
（2013～16 年）
などを務める

山本 勲

慶應義塾大学商学部教授

滝澤 美帆

学習院大学経済学部教授



- 日本経済新聞社はSDGs達成への貢献活動の一環として、企業を対象にSDGsおよびESGの推進を評価する、「日経SDGs経営」と、評価結果に基づく企業表彰を実施
- SDGsを経営と結びつけることで、**事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業を評価するとともに**、SDGs達成を後押し

NIKKEI
SDGs





伊藤邦雄

一橋大学CFO教育研究センター長

- 経済産業省「SDGs経営／ESG投資研究会」座長
- 経済産業省「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX銘柄）」
評価委員会委員長
- 東京証券取引所「企業価値向上表彰制度委員会」委員長
- 経済産業省「グリーンファイナンスと企業の情報開示の
在り方に関する「TCFD研究会」」座長
- 経済産業省・金融庁・環境省「TCFDコンソーシアム」会長

などを務める

SDGs戦略・経済価値	社会価値	環境価値	ガバナンス
方針	人権の尊重	方針	ガバナンス方針と実効性
報告とコミュニケーション	社会課題への対応	脱炭素の推進	取締役会
推進体制・社内浸透	労働時間・休暇	温暖化ガスの把握・削減	株主対応・株式保有
ビジネスでの貢献	ダイバーシティ	消費電力の把握・削減実績	
業績	人的資本経営	資源循環・自然資本への対応	

2025年調査 実施概要

項目	内容
対象企業	国内全ての上場企業 従業員数100人以上の非上場企業（エントリー方式） ※回答をご希望される場合はご連絡ください。
実施期間	5月上旬～7月上旬 1次締切：6月中旬/ 最終締切：7月上旬
調査方法	電子調査票（Excelファイル）ダウンロード・アップロード形式

共通で実施

スマートワーク経営

SDGs経営

5月上旬：調査開始【サステナブル総合調査】

6月中旬：1次締切 / 7月上旬：最終締切

6月下旬～8月上旬：内容の確認・取材

得点化以降は
それぞれ実施

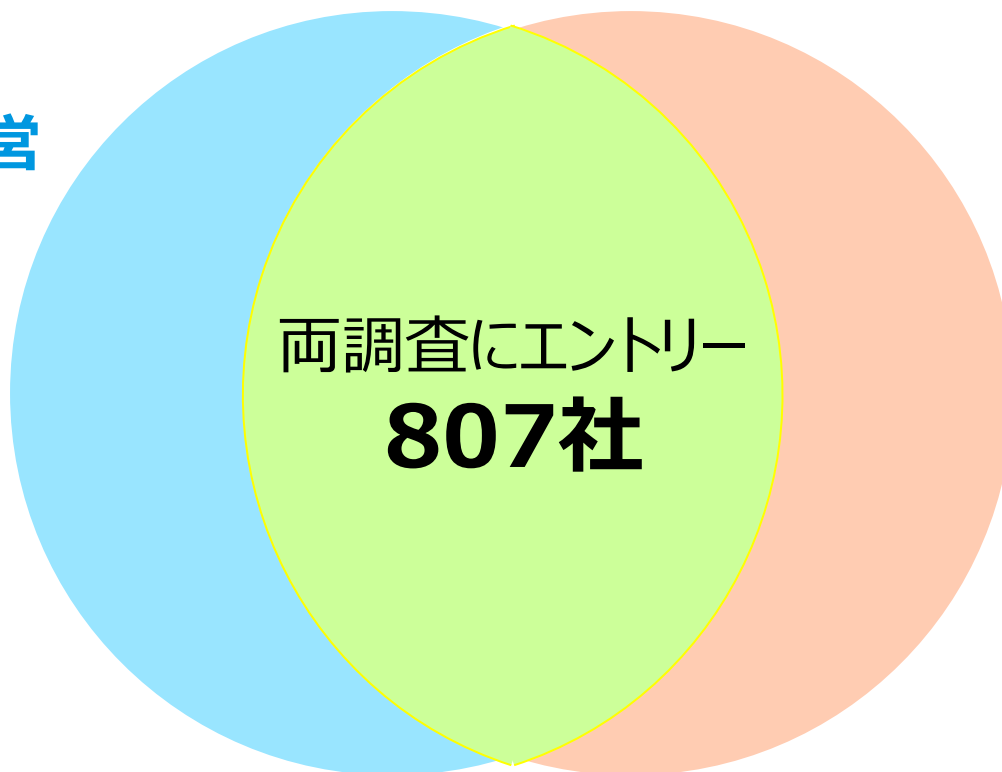
11月：紙面掲載

8月下旬：環境データ部分のみ
修正受付

11月：紙面掲載

掲載は
別日程です

スマートワーク経営
のみにエントリー
23社



SDGs経営
のみにエントリー
80社

サステナブル総合調査 全回答企業 **910社**

1. 調査の趣旨
- 2. 回答のメリット**
3. 今年の調査

■ サステナブル総合調査に回答することで、以下のようなメリットがあります

- サステナビリティに関する総合調査として、サステナビリティ活動で実施すべきことをフレームワークで体系的に理解できる
- 全社横断で回答データを収集することで、全社のサステナビリティ活動を網羅的に可視化できる
- 回答後の評価結果から、自社のサステナビリティ活動の進捗度を把握できる
- 評価結果を、第三者によるESG・サステナビリティ評価として開示に活用できる

■ サステナブル総合調査に回答することで、以下のようなメリットがあります

- フレームワーク・調査項目は年々、社会的要請に基づき内容をアップデートしており、サステナビリティ領域で今後求められていくことを先取り対応できる

近年の主な更新内容

	スマートワーク経営	SDGs経営
2022年	・人的資本に関する指標の開示 ・職務限定正社員（ジョブ型雇用を含む） ・DX、AIの活用	・社会的インパクトの測定 ・人権尊重のフレームワークによる実施 ・ESG債の発行
2023年	人的資本経営の推進方針・開示 ・研修時間、研修メニューの充実 ・賃上げ・賃金改善	・サプライチェーン全体での推進 ・課題解決のためのルール形成活動 ・生物多様性への対応 ・人権デューデリジェンスの実施
2024年	・人的資本開示 ・従業員エンゲージメントの測定 ・生成AIの活用	・課題解決に寄与する自社活動の特定 ・気候変動シナリオ分析 ・TNFD分析・開示

■ 統合報告書を発行している企業

- ⇒ 統合報告書の内容をそのまま転記すれば一定程度回答可能です
- ⇒ 回答が次年度の統合報告書の改訂の参考にもなります
- ⇒ 特に**SDGs経営**への参加をご検討ください

■ サステナビリティに関する各種認定を取得している企業

- ⇒ 健康経営優良法人認定や、CDPの認定などを取得している場合、該当する分野について十分に回答することができます
- ⇒ 周辺のテーマについてもデータ収集・回答をご検討ください

■ 人的資本開示をこれから充実させたい企業

- ⇒ 調査票は、開示をすることが評価される指標を中心に作成しており、当調査の回答、特に数量値を回答するために集めたデータはそのまま開示でも使用できるものが多いです
- ⇒ フィードバック資料から、貴社がアピールしやすい分野を知ることができます
- ⇒ 特に**スマートワーク経営**への参加をご検討ください

■ スマートワーク・SDGsそれぞれ、自社のスコア詳細をフィードバックします

＜分野別評価＞

	人材活用力	人材投資力	テクノロジー活用力
貴社評価	S+	S++	S
貴社偏差値	65.9	75.1	60.0

【評価と偏差値の対応】

偏差値70以上：S++
 65以上～70未満：S+
 60以上～65未満：S
 55以上～60未満：A++
 50以上～55未満：A+
 45以上～50未満：A
 40以上～45未満：B++
 35以上～40未満：B+
 30以上～35未満：B
 偏差値30未満：C

＜分野別 評価ごとの社数分布＞ ※薄緑色の網掛けが貴社の位置になります。

	S++	S+	S	A++	A+	A	B++	B+	B	C
人材活用力	9	28	25	148	186	159	91	53	34	37
人材投資力	25	40	24	171	138	136	75	53	6	0
テクノロジー活用力	3	40	71	102	127	145	155	155	0	0

＜各指標の貴社偏差値＞

※記者評価については、偏差値非公開となっております。ご了承ください。

※2分野にまたがる「人材戦略とKPI」については、2分野合計の偏差値での表示となります。

※調査の設計が大きく変わりましたため、昨年度の偏差値は表示しておりません。

【2分野共通】

貴社偏差値
 人材戦略とKPI **60**

【人材活用力】

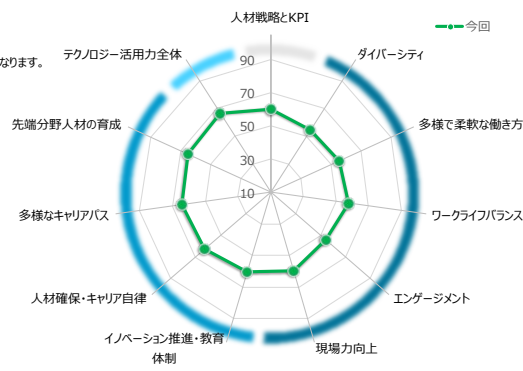
ダイバーシティ	54
多様な柔軟な働き方	56
ワークライフバランス	58
エンゲージメント	54
現場力向上	60

【人材投資力】

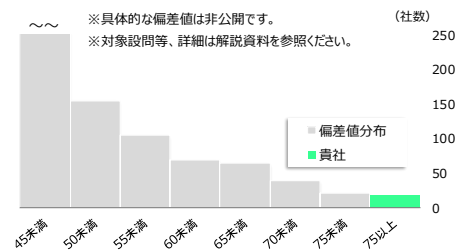
イノベーション推進・教育体制	60
人材確保・キャリア自律	63
多様なキャリアパス	65
先端分野人材の育成	65

【テクノロジー活用力】

テクノロジー活用力全体	67
-------------	----



＜自由記述設問の評価における貴社の位置付け＞



▼総合評価

★4.5

今回偏差値	55.0	前回偏差値	70.0
-------	------	-------	------

▼大分類評価

	今回偏差値	前回偏差値
SDGs戦略・経済価値	48.0	60.0
社会価値	42.0	68.0
環境価値	57.1	67.0
ガバナンス	64.3	65.0

▼中分類評価

SDGs戦略・経済価値	今回偏差値	前回偏差値
方針	30.0	31.0
報告とコミュニケーション	70.0	71.0
推進体制・社内浸透	50.0	51.0
ビジネスでの貢献	44.0	45.0
業績	53.0	54.0

環境価値	今回偏差値	前回偏差値
方針	30.0	31.0
脱炭素の推進	70.0	-
温暖化ガスの把握・削減	56.0	57.0
消費電力の把握・削減実績	75.0	76.0
資源循環・自然資本への対応	25.0	新分類

社会価値	今回偏差値	前回偏差値
人権の尊重	36.0	37.0
社会課題への対応	56.0	57.0
労働時間・休暇	75.0	76.0
ダイバーシティ	70.0	71.0
人的資本経営	100.0	80.0

ガバナンス	今回偏差値	前回偏差値
ガバナンス方針と実効性	32.0	100.0
取締役会	50.0	110.0
株主対応・株式保有	60.0	120.0

■ 調査に関するお問い合わせ先

(株) 日経リサーチ 編集企画部 木村・関根・宇野・原・堀江

TEL : 03-5296-5198 (受付時間 10時～18時) FAX : 03-5296-5100 e-mail : sw-survey@nikkei-r.co.jp

調査No.24-882-0003

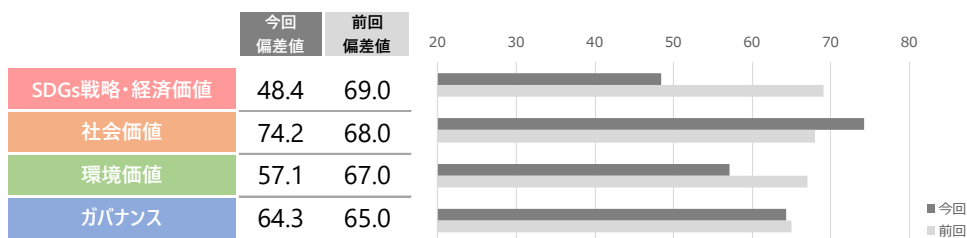
■ 新聞には掲載されない自社のスコア詳細をフィードバックします

▼総合評価

★4.5

今回 偏差値	前回 偏差値
55.0	70.0

▼大分類評価



側面ごとの偏差値評価が
分かります

▼中分類評価

SDGs戦略・経済価値	今回 偏差値	前回 偏差値
方針	30.0	31.0
報告とコミュニケーション	70.0	71.0
推進体制・社内浸透	50.0	51.0
ビジネスでの貢献	44.0	45.0
業績	53.0	54.0

社会価値	今回 偏差値	前回 偏差値
人権の尊重	36.0	37.0
社会課題への対応	56.0	57.0
労働時間・休暇	75.0	76.0
ダイバーシティ	70.0	71.0
人的資本経営	100.0	80.0

環境価値	今回 偏差値	前回 偏差値
方針	30.0	31.0
脱炭素の推進	70.0	-
温暖化ガスの把握・削減	56.0	57.0
消費電力の把握・削減実績	75.0	76.0
資源循環・自然資本への対応	25.0	新分類

ガバナンス	今回 偏差値	前回 偏差値
ガバナンス方針と実効性	32.0	100.0
取締役会	50.0	110.0
株主対応・株式保有	60.0	120.0

側面の内訳として、中分類ごとの
評価偏差値＝テーマ単位で
自社の強み・改善すべき点が客観的に分かります

- 日本経済新聞に**分野別評価と格付け**が掲載されます

(★2.5以下は回答企業一覧のみの掲載)

※スマートワーク経営とSDGs経営それぞれ回答し、両方で★3以上を獲得すれば2回掲載されます

スマートワーク総合 ★★★★★ 11社

味の素

伊藤忠商事

N T T

サントリーホールディングス

ソニーグループ

ソフトバンク

東京海上ホールディングス

日立製作所

富士通

三菱商事

リコー

SDGs総合 ★★★★★ 11社

アサヒグループホールディングス

N T T

M S & A D インシュアランスグループホールディングス

麒麟ホールディングス

K D D I

コニカミノルタ

島津製作所

ソフトバンク

S O M P Oホールディングス

東京海上ホールディングス

リコー

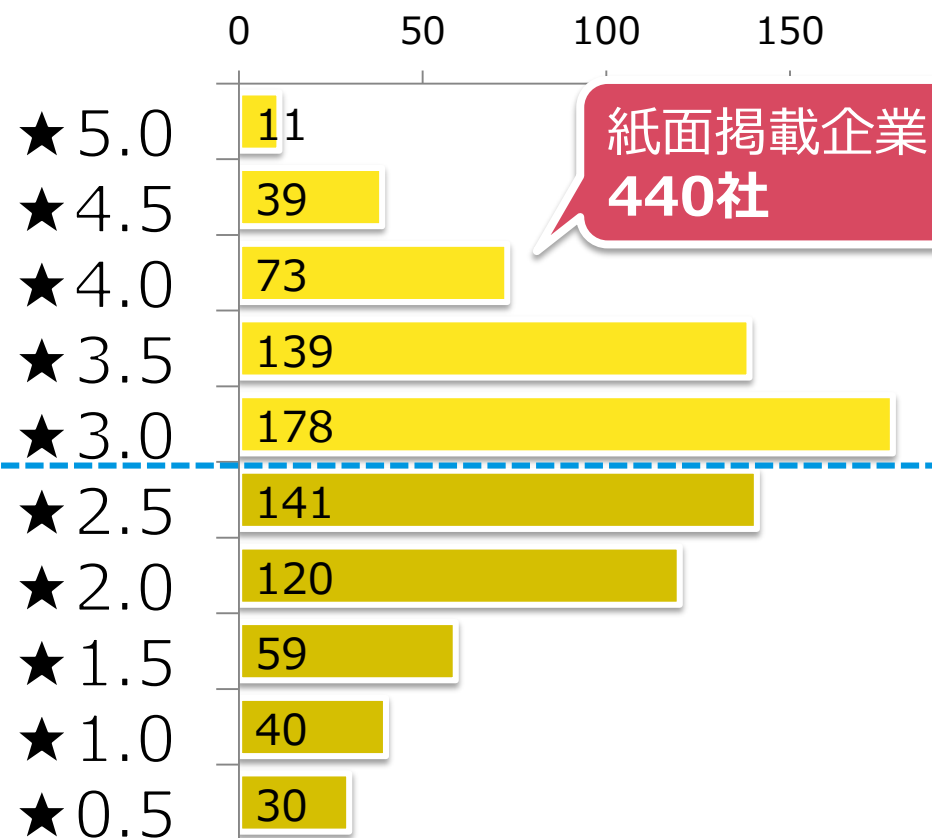
評価が紙面掲載の対象となる★3（偏差値50）以上の企業は

■ スマートワーク経営：440社（全回答企業の53.0%）

■ SDGs経営：466社（全回答企業の52.5%）

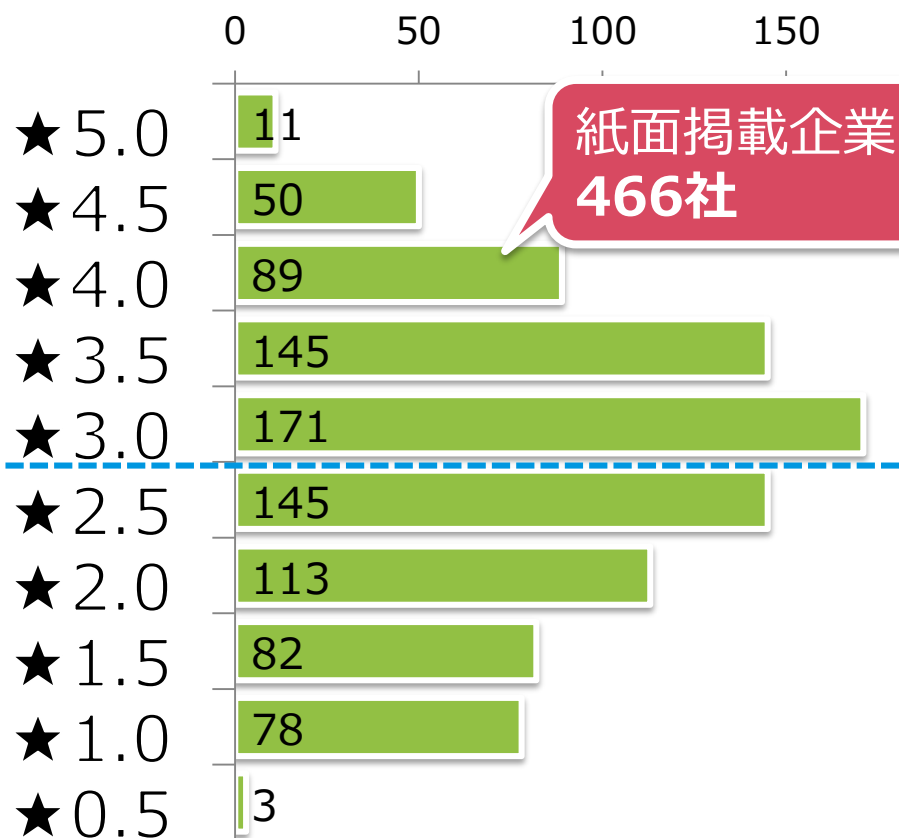
スマートワーク

(社)



SDGs

(社)



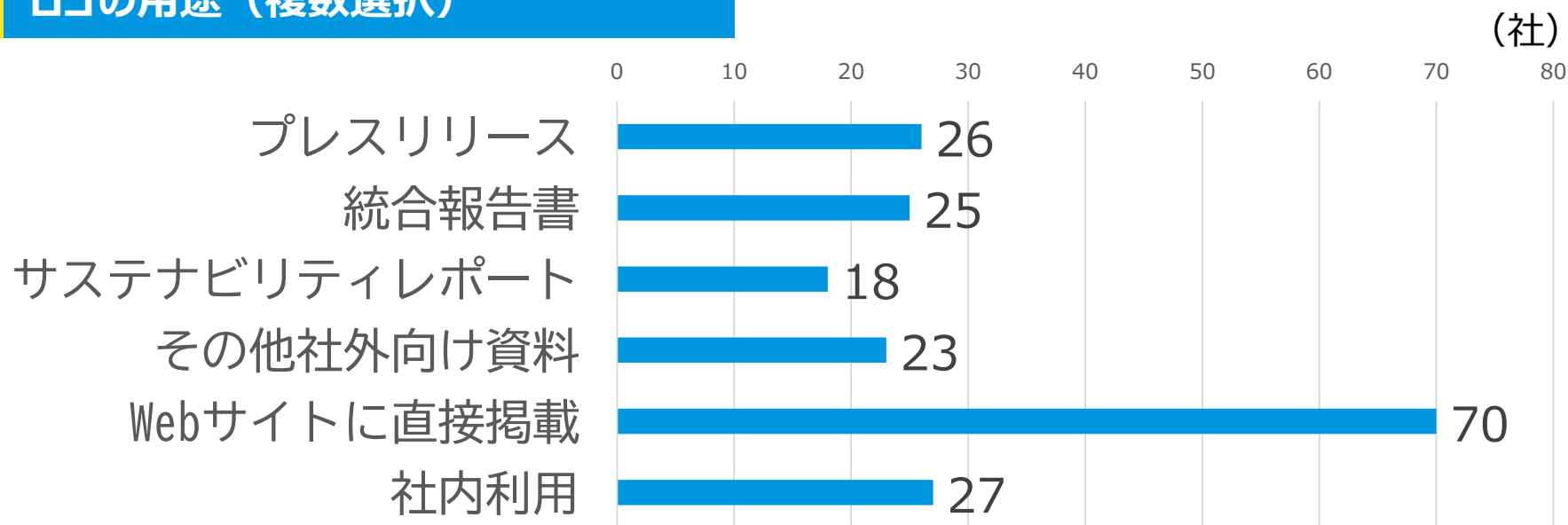
- ★3.0以上の評価となった企業には、★付きのロゴが配布されます
ロゴは無償で自社のHPやニュースリリース、統合報告書などに使用可能



■ SDGs経営評価ロゴについて、2024年11月の掲載から現在までに

85社の方々にご活用頂いてます。

ロゴの用途（複数選択）



■ オービック サステナビリティサイトにて第三者評価として掲載

企業活動に関する第三者評価

日経スマートワーク経営調査

オービックは、新たなイノベーションを生み出し、生産性を向上し、企業価値を最大化させることを目指す先進企業を選定する「日経サステナブル総合調査 スマートワーク経営編」において、3.5星に認定されました。

スマートワーク経営の調査は、2017年から日本経済新聞社が実施する調査です。人材活用、人材投資、テクノロジー活用の3要素によって星5段階で評価されます。



日経SDGs経営調査

日経SDGs経営調査は、日本経済新聞社が実施する調査です。

事業を通じて社会・経済・環境の課題解決に取り組み、企業価値向上につなげている企業を星5段階で評価しています。

オービックは「日経SDGs経営調査2024」において、3.0星に認定されました。



出典：オービック サステナビリティサイト より

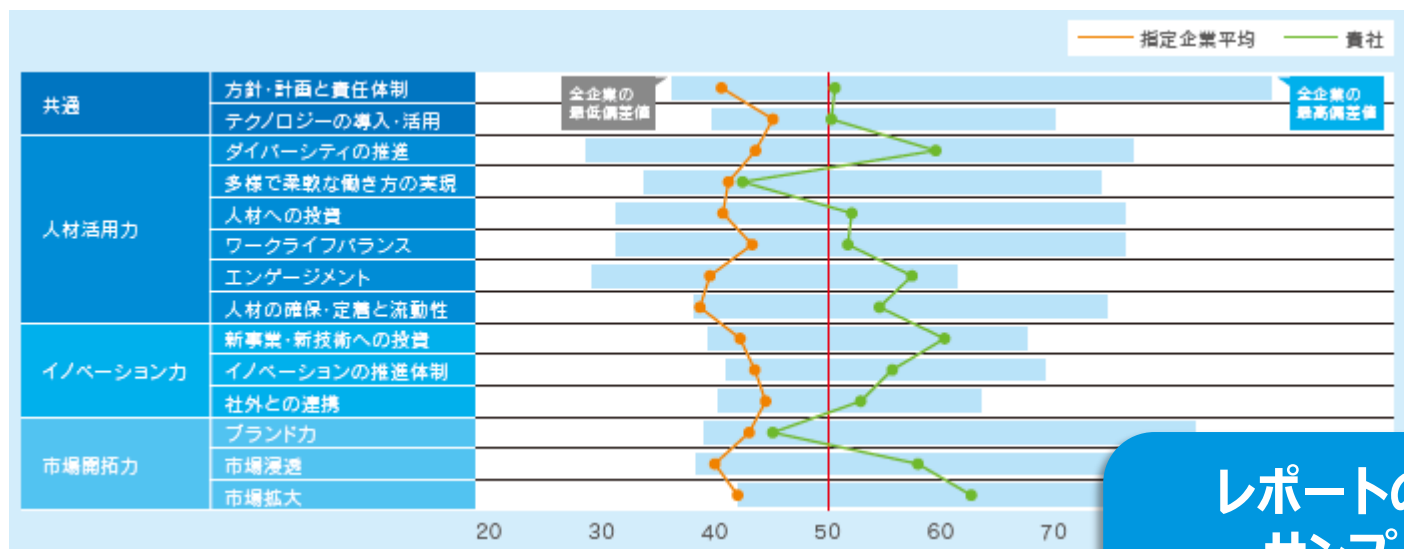
https://www.obic.co.jp/sustainability/governance/external_evaluation.html



■ スマートワーク経営ベンチマークレポート / SDGs経営分析レポート

⇒評価の詳細や**競合他社（指定企業は自由に選択可）**との比較 ※個社の回答は非表示です
記述式設問の回答内容の分析、回答のポイントなども収録

※レポートの種類によって比較対象が異なる場合があります



レポートの詳細や
サンプル等は
日経リサーチHPを
参照ください

■ 情報開示支援サービス

弊社リサーチャーが貴社の開示資料をチェックリストをもとに評価し、改善ポイントを提示
 情報開示の充実の参考となる開示例を提供
 ⇒貴社ならではの情報開示を支援します



分野	大分類	中分類	チェックポイント	必須レベル
環境系	気候変動関連の開示	SDG6戦略方針	インシニアプ、宣言、認定、評価機関スコア認定名	1
			参加、認定、認定の結果	1
			格付けや評価結果	1
			そのインシニアプや宣言、認定を取り入れた理由	2
			マテリアリティ（該当すれば）マテリアリティ特定プロセス（課題抽出、優先順位付け、経路の意思決定）	2
			マテリアリティ特定率	1
			見直しの有無	1
			達成目標年	1
			詳細情報へのつながり・アクセス	1
			気候変動対策方針	1
			企業に与える関連性	1
			説明（目標）	2
			企業独自に設定した目標の有無	1
			説明（現状分析・進捗）	1
			1.Scope1～3 温室効果ガス排出量	1
社会系	ダイバーシティ	ダイバーシティ	2.消費電力、再生可能エネルギー使用量（自家発電量や発電量など）	1
			3.オフセット状況（クレジット、証書など）	2
			4.カバレッジ	2
			5.第三者認証	3
			1～5の継続的な開示	3
			開示がわかりやすい表現での開示	1
			開示の有無	2
			開示の有無	3
			開示の有無	2
			開示の有無	2

イメージ

レポートの詳細や
サンプル等は
日経リサーチHPを
参照ください

1. 調査の趣旨
2. 回答のメリット
- 3. 今年の調査**

■ スマートワーク経営について、以下の改訂を検討中

- 経営戦略を実現するための人材戦略の策定
- キャリア自律支援策（社内公募、FAなど）の充実
- グループ会社従業員のエンゲージメント向上

■ SDGs経営について、以下の改訂を検討中

- 重要課題(マテリアリティ)の特定・内容
- 温暖化ガスの原単位管理
- 温暖化ガスの排出削減政府目標（2035年までに60%削減）への対応
- サーキュラーエコノミーについての分析・対応
- 人権デューデリジェンスの対応
- リスクマネジメントの開示

■ 日経リサーチ サステナブル総合調査特設サイト

https://www.nikkei-r.co.jp/service/survey/smartwork_survey/

■ 日経SDGs経営調査アーカイブ

https://www.nikkei-r.co.jp/service/survey/sdgs_survey/result/

■ 日経Smart Workプロジェクト

<https://smartwork.nikkei.co.jp/>

調査に関するお問い合わせ先

日経リサーチ 編集企画部
日経サステナブル総合調査事務局



03-5296-5198



sw-survey@nikkei-r.co.jp